九州伝産の旅
vol.1

2022 年

久留米絣

下川織物

＜織元紹介＞

1948 年に下川富士男氏が下川織物を設立。220 年の歴史を持つ福岡県の伝統工芸織物久留米絣 括り（くくり）技法で多彩な柄を表現する先染め織物を 3 代 70 年に渡って作り続ける織元。ローカルで伝統を継承し、グローバルに海外展開するコミュニケーションビジネスという独自のスタイルを確立している。

第 6 回ものづくり日本大賞

経済産業大臣賞受賞（伝統技術の応用部門）

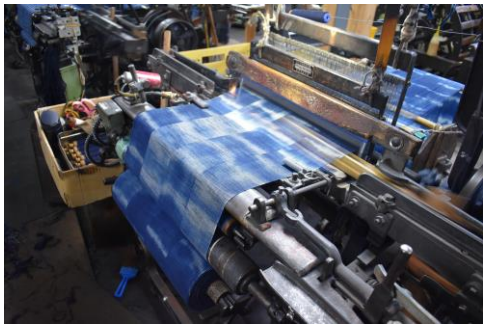
久留米絣（くるめがすり）　下川織物（しもがわおりもの）

徹底したオープンマインドで唯一無二のビジネスモデルを構築

工芸のまち「八女」で、年間 1,000 人以上の工場見学者を受け入れ、国内外の様々な企業やデザイナー等とコラボされている久留米絣の下川織物さん。敷地に天日干しされた糸がとても美しく、目を奪われました。3 代目下川強臓さんにお話を伺いました

下川強臓さん

工場の外に天日干しされた糸



工場の様子

■久留米絣の歴史・特徴

久留米絣のルーツは 1800 年頃、当時 12～3 歳だった井上伝（いのうえでん、1788～1869 年）という少女が糸を括って藍で染め、織り上げて模様を生み出すことを考案したと言われています。久留米絣はおよそ 30 工程、数ヶ月にも及ぶ製作期間を経て、ようやく完成しますが、模様の仕上がり具合を決める手括りの作業は、大変な熟練を要します。1957 年にはその歴史的・芸術的価値が高く評価され、国の重要無形文化財に指定されました。肌なじみの良い、綿織物独特の素材感は、久留米絣の大きな特色で、着れば着るほど、洗えば洗うほど、心地よさと風合いが増していきます。絣の芸術性もさることながら、綿素材の優れた実用性をも併せ持つ、他にはない魅力があります。

※久留米絣協同組合 HP より引用・編集。

Q.「下川織物」のビジネスモデルや特徴は？

基本的に営業は行わず、人とのつながりでビジネスを行っていくスタイルを取っており、文化や文脈を現代に照らして再解釈した商品作りを心がけています。人と人との輪の大切さを表す「七宝柄」を会社のロゴマークに採用しており、商品にも特徴的な柄として使用しています。「七宝つなぎ」の変則柄で「天の川」や「銀河」に見立てて柄を構成した「七宝銀河」や「七宝つなぎ」の中に「ロゴマーク七宝」を浮かび上がらせた「七宝菱形」などのデザインもオリジナルデザインとして開発しました。デザインは「糸」を見て職人として「見えてくるもの」を柄にしています。

下川織物のロゴマーク

「七宝銀河」

Q.海外とのコラボ商品も多いようですね。

海外については、これまでオランダ、フィンランド、スウェーデン、フランスのデザイナー等とコラボ商品を開発してきました。フランスについては JETRO 事業を活用しましたが、単純な展示会出展等にはしたくなかったので、パリ国立工業高等デザイン学校で久留米絣を紹介する講演会を実施すると同時に講演参加者へ久留米絣の図案コンペを行いました。現地で出来たネットワークは今も継続しています。現在はコロナで海外出張が難しいですが、将来的には久留米絣の図案を世界共有にして、世界中でデザインしてもらうのが夢です。

フランスとのコラボ商品

フランスでの講演の様子

フィンランドとのコラボ商品

スウェーデンとのコラボ商品

Q. 起業家支援はどのような目的で取り組んでいるのですか？

自分でヒット商品を生み出すタイプではないと思っているので、久留米絣を使って若いデザイナーやクリエイターが起業するのを応援したいという思いで様々な分野企業等とコラボしています。例えば登山アウトドア向けサービスを行っているスタートアップ企業「YAMAP」さんとは、マウンテンパンツの素材として久留米絣を提供させていただきました。また、同じ八女にある「うなぎの寝床」とも「MONPE」の製作等、うなぎの寝床創業当初からのお付き合いになりますが、近くで成長していく姿を見るのは嬉しいものです。起業家支援とは異なりますが、海外からの留学生を数ヶ月間、研修生として受け入れた経験もあります。世界中に 1000 人の弟子を作るのが目標です（笑）。

うなぎの寝床とのコラボによる「MONPE」

Q.独自のビジネスモデルはどのように生まれたのですか？

もともと家業を継いだ時から、普通の職人にはなりたくないという思いがありました。跡継ぎはゴールではなく、跡継ぎ自身が明確なビジョンを持つことが重要だと思っています。自分の目標は職人として唯一無二のものづくりを行うことです。
福岡県主催の研修事業でマーケティングやインターネットの活用等を学んだことが現在のビジネスモデル構築のひとつの契機になったと思います。SNS もいち早くはじめ、Instagram より取材いただき、Instagram ジャパンのオフィスに招待されたこともあります。現在も SNS や YouTube の活用等、情報発信には力を入れています。

Q.最近の取り組みを教えてください。

依頼主と生産者の製作プロセスの共有と、ある一定の情報の開示により伝統工芸における D2C ビジネスモデルの構築を図ることを目的に、「夢を叶えるプロジェクト」を立ち上げました。
具体的には昨年は新婦さんがデザインした柄で結婚式のためのオリジナルの久留米絣を制作しました。久留米絣は１反１２メートルあるので、ドレスを作ってもあまりが出ます。結婚されたご夫妻がドレスに使った生地を使って子供の服を作るなど、生地を後生に引き継げるのも魅力だと思います。

profile

織元名

下川織物

場所

福岡県八女市津江 1111-2

電話

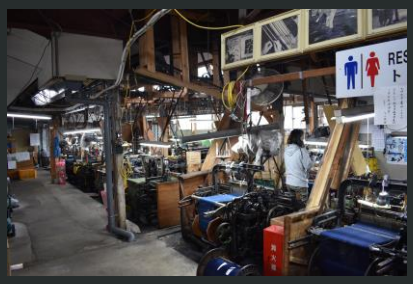
0943-22-2427

営業時間

9：00～16：00

Web サイト

https://oriyasan.com/



Q.「下川織物」として大切にしていることを教えてください。

「オープンマインド」をモットーにしています。情報をオープンにした上で幅広く受け入れ、チャレンジ精神を持ち、ものづくりの楽しさを伝えていくことを大切にしています。

Q.今後の展開は？

現在、産業技術総合研究所の「人口知能技術コンソーシアム」に参加しています。今後はバリューチェーンの共有化や製造メーカーと卸等のマッチングについて、ＡＩ技術等の活用も有効だと考えています。職人目線のみで提案するだけでなく、顧客サイドと予めビジョンを共有することで、ビジネスの可能性を広げていきたいです。
また、久留米絣を未来に継承していくため、製造メーカーと卸が連携して広域連合組織を立ち上げ、産地としての活動の見直し等改革を現在行っています。その一環として、久留米大学の学生と久留米絣産地がコラボしたイベントを年度内に企画中です。

Q.久留米絣、八女の魅力を教えてください。

動力織機による量産体制を持つ絣の織物は世界で久留米絣だけと言われています。
また、久留米絣は織機の特性上、柄に微妙なズレが生じ、「ゆらぎ・かすれ」を生み出しましますが、予測不能なところが人の脳にも心地よく感じ、久留米絣としての魅力につながっていると考えています。また動力を使うといってもほとんど手作業で行われるため、柔らかい着心地があります。製造に関しては産地内でのエコでコンパクトなモノづくりが出来ており、SDGs やサスティナブルな観点からも、環境に配慮した生産体制が出来ているのではないかと思います。
八女は八女提灯、手すき和紙、竹細工等、様々な工芸品分野の職人さんが存在する「職人」のまちです。久留米絣は現在下川織物だけですが、八女に来たら他の工芸品も併せて楽しんでいただきたいです。

「職人」「アーティスト」「経営者」「教育者」等多彩な顔を持ち、質問をぶつけるたびに熱い思いを語っていただいた強臓さん。工場や情報をオープンにし、広く受け入れることで、そこから生まれる人とのつながりを大切に、ビジネスにつなげていく独自のビジネスモデルはとても刺激的でした。